問 村政懇談会の貴重な意見は

答 周知に努め、「見える化」を検討

新政とうかい
大内（おおうち） 則夫（のりお） 議員

問 参加者に発言依頼が周知徹底されず、議事録に発言が記載されていない等の苦情がある。いただいた貴重な意見や提言を村ホームページや広報とうかいで公開し、住民に「見える化」して村政運営に活かしてはどうか。

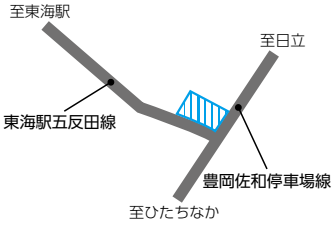
答 参加者に事前の周知や説明不足があり、議事録については意見や結果を共有し改善を図る。ご意見の中にある思いも伝えられるよう周知・公開に努める、地域と住民に対する「見える化」を検討する。

問 新たな商業施設の噂があるが

答 民間から相談を受け協議中

問 村松小学校周りの整備予定、五反田線と県道が交わった角地は商業施設の噂があるが土地利用計画は。

答 この地域は軟弱地盤であるため、地下水の低減や圧密沈下工法等により地盤の支持力を上げるための工事をしている、村有地については民間業者から商業施設用地として利用したい旨の相談を受け協議を進めている。



五反田線と県道の交わった角地
（3500 坪）

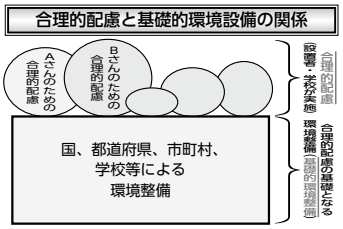
問 インクルーシブ教育実現に向けて

答 同じ空間で共に学ぶことが自然

新政とうかい
武部（たけべ） 愼一（しんいち） 議員

問 日本の特別支援教育は障害のある子どもの分離教育でありインクルーシブ（包括的）教育を目指すものではないと国連から廃止勧告が行われた。文部科学省は反論。検討委員会では海外状況調査を行い2月に報告書案改定が行われ、可能な限り同じ場で共に学ぶ環境整備を始める。障害のある児童生徒が特別な存在ではなくあたり前に共存し、通級による指導などの特別な支援も特別でないと受け止められる環境醸成が重要。来年度からの実現に向け一層の促進を求める等の方向性が示された。通常学校、通常学級の在り方、今後の対応について伺う。

答 同じ空間で共に学ぶことが自然であり、互いに尊重しながら活動することが大切。特別な支援を受ける児童生徒が特別ではなく、全ての児童生徒が特別で、それぞれにあった支援が必要という意識をもって指導にあたる。人と人、人と社会がつながり支え合う取り組みが生まれるインクルーシブ社会の醸成に教育と合わせて努める。



インクルーシブ教育に求められている
合理的配慮と基礎的環境整備